

**製品名: PPAR- $\alpha$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16411**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	52kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PPARA
別名	PPARA; NR1C1; PPAR; Peroxisome proliferator-activated receptor alpha; PPAR-alpha; Nuclear receptor subfamily 1 group C member 1
遺伝子 ID	5465.0
SwissProt ID	Q07869
免疫原	抗血清はヒト PPAR- $\alpha$ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 6-55

**背景**

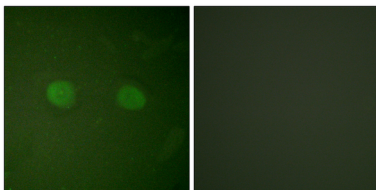
ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体アルファ (PPARA) Homo sapiens ペルオキシソーム増殖因子には、高脂血症薬、除草剤、口

イコトリエン拮抗薬、可塑剤が含まれます。この用語は、これらの物質がペルオキシソームのサイズと数の増加を誘導することによって来ています。ペルオキシソームは、植物や動物に見られる細胞内小器官で、呼吸やコレステロールおよび脂質の代謝酵素を含んでいます。ペルオキシソーム増殖因子の作用は、ステロイドホルモン受容体スーパーファミリーに属する PPAR と呼ばれる特定の受容体を介して行われると考えられています。PPAR は、細胞増殖、細胞分化、免疫反応や炎症反応に関与する標的遺伝子の発現に影響します。密接に関連した3つのサブタイプ(アルファ、ベータ/デルタ、ガンマ)が特定されています。この遺伝子は、核内転写因子であるサブタイプ PPAR アルファをコードしています。この受容体には、選択的スプライシングを受けた複数の転写バリエーションが報告されている。機能: 低脂血症薬や脂肪酸などのペルオキシソーム増殖因子に結合する受容体。リガンドによって活性化されると、アシル CoA 酸化酵素遺伝子のプロモーター領域に結合し、その転写を活性化する。したがって、脂肪酸のペルオキシソーム  $\beta$  酸化経路を制御する。、オンライン情報: ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 (PPR) エントリー、類似性: 核ホルモン受容体ファミリーに属する。NR1 サブファミリー。、類似性: 核受容体 DNA 結合ドメインを1つ含む。、サブユニット: レチノイド X 受容体とヘテロ二量体を形成する。NCOA3 および NCOA6 共活性化因子と相互作用し、標的遺伝子の転写を大幅に増加させる。また、in vitro において PPARBP 共活性化因子と相互作用する。AKAP13 と相互作用する。、組織特異性: 骨格筋、肝臓、心臓、腎臓。、

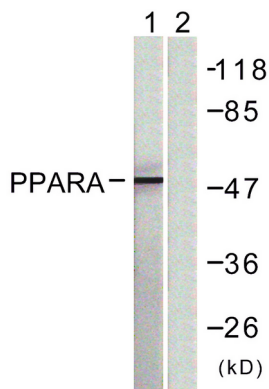
## 研究分野

PPAR;アディポサイトカイン;

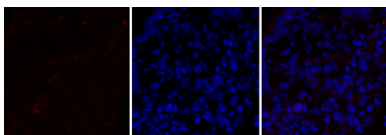
## 画像データ



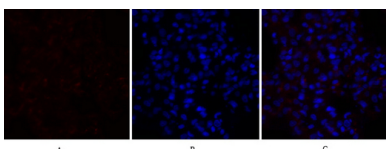
PPAR- $\alpha$  抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



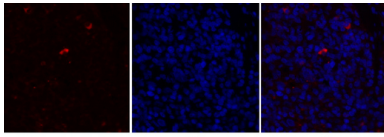
PPAR- $\alpha$  抗体を用いた NIH/3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



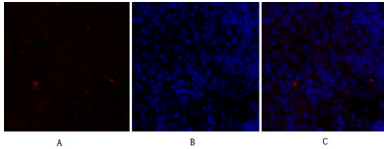
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, PPAR- $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



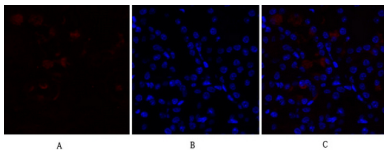
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, PPAR- $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



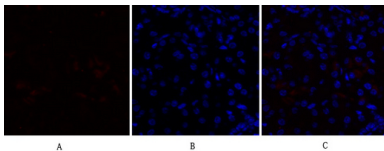
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, PPAR- $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



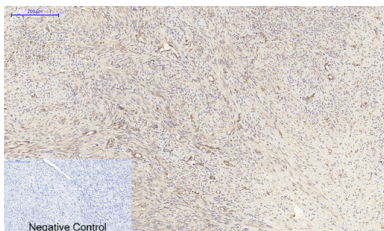
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, PPAR- $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, PPAR- $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, PPAR- $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. PPAR- $\alpha$  ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。